発表概要

ネットワーク名【立川市社会福祉法人地域貢献活動推進ネットワーク（愛称:ふくしネットたちかわ）】

発表タイトル		「社会福祉法人が取り組む参加支援」
取組内容（概要）		2020年度を準備期間とし、2021年度より「社会福祉法人が取り組む参加支援」に取り組んでいる。コロナ禍以前から取組みの可能性が挙げられていたが、コロナ禍においても可能な形を模索しながら取組みを開始した。（参加メニューに非対面/リモートの活動を検討する等）。社会福祉法人が地域貢献活動の一環として、何等かのフォローを要する方に、社会参加や交流の機会、ひいては職業/職場体験の機会提供に取り組むものであり、昨年度はワーキンググループを発足して、対象や目的の基本的な考え方や、実施の流れ等の整理に取り組んだ。
地域の課題やニーズの把握状況、取組みのきっかけ		幹事会・全体会を通した情報共有の他、2020 年度当初にアンケートを実施し、コロナ禍の影響や各法人/施設の状況を調査・全体共有した。他、幹事会や全体会などの定例会において、各法人・施設の現状を適宜共有している。
事業実施のプロセス	法人内・事業所内の活動への理解、推進方法	若者や障害のある方、制度の狭間にあると思われる方の「社会参加（職業体験や地域活動体験等）」について対象者や目指すべきこと等、社会福祉法人が地域貢献として共に考え、実践していくことの意義や方向性を全体会等で整理、確認を行っていく
	取組み体制	幹事会、全体会を通じて参加支援への取組みの意義の説明、フロー図等による共通理解を図る
	地域の関係者や関係機関・複数法人との連携	各地区担当者が法人施設の連携に取組むことにより法人の独自性を活かした地域貢献や法人間の連携による地域貢献活動につなげていく
	活動資金	東京都地域公益活動推進協議会　令和3年度地域ネットワーク助成活用
取組みにあたっての課題と対応		地域によって、法人・施設の分布にも差異がある（保育園が多い地域、など）。地域課題や、文化の違いも踏まえ、地域に根差した活動に発展させていかれるかが課題。各地区担当者が法人・施設の連携に取組みながら全体会等の場での継続的な情報共有を実施していく
成果と課題		市内全ての社会福祉法人が参加するネットワークであるため、規模・業態にはそれぞれ差異がある。その中で、施設・法人の強みを活かした活動を展開していくための工夫が必要。
今後の展望・抱負		2022 年度からの重層的支援体制整備事業導入を見据え、約 2 年間に渡り本ネットワークで（主に）取組む参加支援について検討を重ねてきた。今後も参加支援への取組みを中心に地域の公益的な取組みを創出するため、各法人、施設の連携、協働を図りながらその実現に向けて活動を広めていく